

シュロの会たより

平成29年7月23日発行
発行責任者：シュロの会
NO121

平成29年6月22日東京都世田谷区烏山区民会館において、東京つくし会主催により「平成29年度都民精神保健啓発講演会」が200人もの聴講者の中で開催されました。その模様をシュロの会大野理事がレポートします。

平成29年度都民精神保健啓発講演会

◆テーマ：「その人らしさを大切にした訪問看護について考える

～どこまで出来る当事者／家族支援看護現場からの実践～

◆講師：原子英樹（はらこひでき）氏

円グループ訪問看護ステーション卵（らん）所長

【レポート・・・講演会に参加して】

訪問看護をされている原子先生は、訪問の第一歩は、「当事者と関係性を作ることから全てが始まる」とお話をされていました。当事者との関係性には個人差があり時間のかかり方も様々。それでもひとたび関係性ができれば様々な手段を用いてアプローチが可能となり、思い切った指摘もできるようになるとのことです。

例えば、薬に関すること、日頃の生活に対する修正提案、或いは家族との関係など・・・。

ところで、昔から精神医療で行われてきたことは、対象者の問題に焦点を当て、その問題（病気）を解決しようと専門家が患者の治療を行うため、問題点（病気）に注目するあまり、その人の健康な部分が隠れてしまいます。

そして問題点だらけの患者となってしまう健康な自分のイメージができなくなってしまいます。そして病気がよくなったら、次のステップの治療へいくという流れになっています。

病気はあくまでもその人一部であり健康な部分にも焦点を当て、その人らしい豊かで多様な生活を応援したいと話されていました。

私は講演を聴講した中で、「利用者を中心に置いて、その方の思い、考えを尊重し、周りに家族や支援者が居て地域資源を使って支えていく」ということに、本当にその通りだと思いました。

しかし大変難しいことも事実でしょう。

原子先生は訪問看護の方にもお話をされているとのこと、一生懸命支援をしてくださる方がいることは、一人の親として嬉しく思いました。それと同時に励みにもなりました。

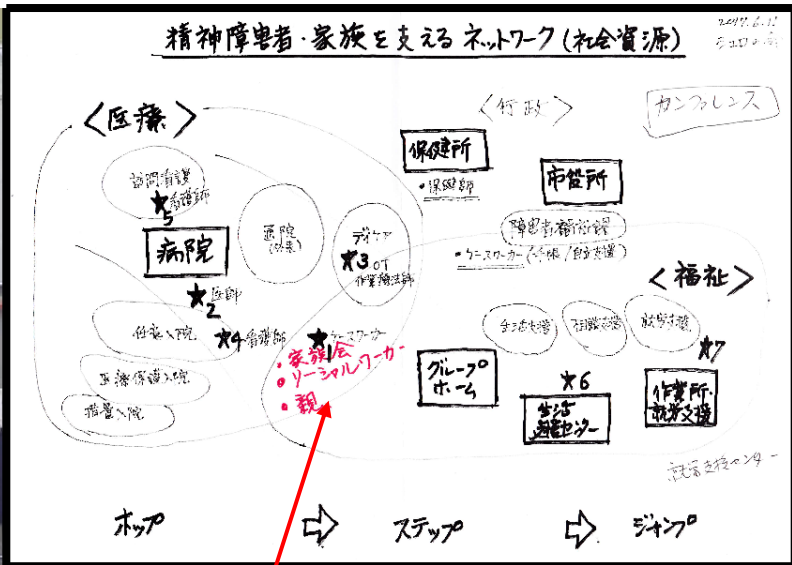
～シュロの会大野～

シュロの会 交流会

6月11日にシュロの会が拠点としています「くにたち福祉会館」において、勉強会を兼ねた交流会として、シュロの会側島副会長の体験談を元にした「チームとしての医療と福祉について」を題材にして参加した会員の皆さんと勉強を行いました。

当日は、地域活動支援センター「連」の中村所長様にもお越しいただきましたので、その「連」の活動やピアスタッフについてのお話を聞く機会がありましたので、併せてレポートをさせていただきます。（な）

【勉強会風景】



医療や保健所、市役所など、各関係機関の中心にソーシャルワーカーがいる

【勉強会の内容】

側島副会長の娘さんの治療体験の内容を元に、チーム医療の必要性について説明がありました。病院によって格差があるとは思いますが、側島副会長の娘さんが入院している病院では、各入院患者のカンファレンスを主治医ではなく若いソーシャルワーカー（精神保健福祉士）が中心となり、当事者の状況を医師や薬剤師に質問をしたり、今後の投薬の量や看護について方向性を進めていくとのことを実施しているとのことでした。

一般的に、家族が病院のカンファレンスに参加する機会は少ないと思いますので、貴重な情報を共有していただきました。

【中村所長のお話】

中村所長様からは、地域活動支援センター「連」で現在スタッフとして事業所で働いている当事者の方の仕事ぶりについてお話がありました。昔は利用者だった方が、今では同じ職員として執務しているとのことでした。ピアサポーターとして活動しており、自分の体験談を当事者の方にお話しするなど当事者に寄り添った仕事ぶりがとてもよいとのことでした。勉強会の参加者から、「ピアサポーターになるためには資格があるのか」との質問も飛び交い、活発な情報交換でした。



今後の活動予定

○ 第3回ミニ交流会、家族交流会

開催日：平成29年9月17日（日）

場所：くにたち福祉会館

時間：午後1時30分から4時まで

○ 「レジリエンスの心理学」

～家族それぞれの自立に向けて～

日時：平成29年9月2日（土）午後1時30分～3時30分

場所：あきる野ルピア 3階 ルピア産業情報研修室

講師：品川 博二 先生（日本ケア・カウンセリング協会代表理事）

主催：西多摩虹の会（問合せ：小笠原 携帯：090-1882-0306）

会費：無料 申し込み不要先着順45名

～精神医療講演会～

（29市民精神保健福祉講演会）

「ひとはなぜ病を得るのか

～イニシエーションと物語～」

講師：東京都医学総合研究所病院等連携研究センター長糸川昌成氏

日時：8月20日（日）午後1:30～4時

場所：くにたち福祉会館大ホール 入場料：無料

国立市富士見台2丁目38-5 042-575-3221 予約不要：先着順

主催：精神障害者家族会シュロの会 問い合わせ：080-1211-6898 植松

【講演内容ダイジェスト】

四半世紀前、駆け出しのころの私が考えていた精神疾患は、「脳の病気」以外の何物でもありませんでした。たとえば、ある種の幻聴はドーパミンD2受容体に還元できる。なぜならば、抗精神病薬でD2受容体を遮断すると幻聴が消えるから。抑うつ気分の一部は、セロトニン神経で説明できる。なぜならば、抗うつ薬でシナプス間隙のセロトニン濃度をあげると抑うつ気分が解消されるから。こうやって、焦燥感やノルアドレナリン神経へ、不安はGABA受容体というように、精神症状を脳のそれぞれのパーツへ局在化していけば、やがて精神疾患は脳の状態に全て置き換えられるはずだと考えていました。

こういった脳局在論的な疾病観は、精神障害の医療化が前提となります。医療化とは、個人の不調を個体の生理学的状態に原因づけ、不調が原因に基づいて診断され治療の対象とされることです。原因は、その人の中にある。たとえば、肺結核は結核菌の感染が原因であり、ストマイ・アイナー・リファンピシンの投与によって治療されます・・・・・・・・ 続きは講演会で！！



自由広場

会員の皆様からのコメントをお待ちしております。

コメントは、家族会・ミニ交流会時やホームページのお問合せメールでお受けしています。40文字以内でお願いします。(編集部)

爽やかな季節、一年で一番良い
と思っていたのに、いきなりの暑
さに驚いたり、着るものも出入り
に大変な日々です。

(H)

母の日にカーネーションのプレ
ゼント。一人でお花屋さんで選ん
だ色とりどりのカーネーション6
本きれいにラッピングしてあり最
高のプレゼントでした。(H)

新しく始めた仕事より、相変わらず
家族のことがストレスです。思いはあ
るのに、どうにもならないのが辛いで
す。(M. M)



心の病気についての偏見はなかなかなくなりま
せん。やはり子供のころの教育が大切なのは。
(Y. S)

私は山梨で生まれ、いまでもその故郷が大好きで
す。しかし、ここ数年里帰りもできず、とても寂し
いです。皆様は帰ることはありますか。

(K. U)

近くのスーパーに「猫の休み所」とか言うのがで
きたようでした。
そこで一句

【ど休み所の 哀れやせ猫 恋の猫】

(戦火の嬰子博子)

編集後記

昨年6月に息子の障害年金の申請を行ったのですが、よくわからない中で行ったため認めてもらえませんでした。その後に「精神の障害に係る等級判定ガイドライン」が示されたこともあり、障害年金についてシュロの会の勉強会や他の講演会で障害年金のことを少し勉強しました。昨年末には2級の障害者手帳を取得したので、この度2回目の障害年金申請を行なうように準備を進めています。

社会保障関係費は32兆円を超え、国家予算(約97兆円)の約3分の1に達し、将来の生活に不安を抱いている方は大勢いると思いますが、私も息子が一人で生活が営むことができるようにと思っています。より良い未来のために皆さんと考えていきたいと思っています。

